

(様式1)

学校番号 (小24)

令和7年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(船越小) 学校運営協議会長

<本年度の目標>

○教職員がコミュニティスクールを知る機会や話し合う場をもち、学校の支援へとつなげる。
○子供ファーストで、更に子供達のがのびのびと活動できる場(船越小学校)となる様な議論を行う。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

○学校運営の基本方針である「たくましさ しなやかさ」を各自の立場で意見を出しあい、「たくましさとは」「しなやかさとは」と深掘りする事で子供たちを育てる意識を共有する事ができた。
○今年度、特に重視したい点が明確だったので、的を絞って話し合えた。4つの重点について、各委員が様々な角度から意見を述べる事で、お互いに別の視点に気づくことができ、熟議が深まった。
○学校が実施する教育活動や地域と連携した取組について説明を受け、目的や意義を十分に理解することができた。また、家庭・地域とのつながりが、子供たちの学びや成長に良い影響を与えていることを改めて実感した。熟議を通して、学校・家庭・地域それぞれの役割や連携の在り方を共有し、今後の支援活動の方向性を考えるきっかけとなった。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

⇒ ア よくできた イ できた ウ あまりできなかった エ できなかった
(理由)

○「たくましさ」を育てていくために、何ができるか、学校と地域双方の現状認識をすり合わせる事ができた。
○本年度は、船越小の学校教育目標である「たくましく しなやかな ふなっこ」のうち、特に「たくましさ」の育成について課題意識を共有し、元気のなさや積極性の不足といった点の改善に向けて協議を行った。また、本年度は教育現場の先生方との意見交換の機会ができ、コミュニティスクールの活動を知っていただくだけでなく、学校の実情をより深く理解しながら建設的な対話ができ、先生方の思いや工夫に触れることで、協議会として学校運営を支える視点が広がり、より実効性のある議論につながったと感じている。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

⇒ ア 充分に行った イ 行った ウ あまり行わなかった エ 行わなかった
(理由)

○学校のホームページ、ふなっこだよりを地域の回覧で回すなどで地域に周知していた。
○コミュニティスクールとして体系的・計画的に情報を発信する仕組みづくりには十分取り組むことができず、保護者や地域への周知にはまだ改善の余地があると感じる。

<評価項目4> 今年度の評価を踏まえた来年度の目標

○先生方とのグループワークでは日々長い時間子供と接しているからこそその意見で、実態がよくわかった。課題を把握する上でも有効だと思う。教職員がCSを知るだけでなく、協議会側が学校をよく知ることもできるので、話し合う機会をもつことは続けたい。
○今年度は、これまでにはなかった現場の先生方との意見交換の機会があり、学校現場の状況や取組をより深く理解できたことは大きな成果であった。教員の視点を直接伺うことで、コミュニティスクールとしての議論にも具体性と現実性が増し、より建設的な話し合いにつながったと感じている。この成果を踏まえ、来年度の目標としては学校と地域がより密接につながり、子どもたちを支える環境づくりに貢献しながらも、本活動の情報発信をさらに強化できる仕組みも検討できればと思った。